

AI生成音楽と人間の曲、

識別ほぼ不可能

8カ国調査で97%が聞き分け

られず

23161176 高橋晴仁

記事の概要

- ・ 英調査会社イプソスと音楽プラットフォームのディーザー社が8カ国で計9000人を対象に実施した調査。
- ・ ブラインドテストでAIの2曲と人間の1曲を聞かせた。
→参加者の97%が人間の曲を選べなかった。
- ・ 人工知能（AI）が生成した楽曲と人間が制作した楽曲の聞き分けが多くの人にとって困難であることが分かった

不快感を覚える参加者も多数

- ・調査によると、聞き分けられないことに不快感を覚える参加者が多数いたという。

→多くのプラットフォーム上でAI生成音楽であるという表示を明確にすることへの支持が強い

- ・ディーザーは、同社のサービスに毎日5万曲超のAI生成曲がアップロードされており、新規楽曲の三分の一を占めていると明らかに

→AIのみで生成された音楽を検知できるツールを備えており、該当曲はアルゴリズムによるレコメンド対象から自動的に除外されるも慎重な検討が必要。

コメント

・ AIが作ったコンテンツは「人による温かみがない」と批判されてきましたが、もはや人が作ったコンテンツと見分ける事ができなくなってきており、「AIは冷たい」という議論が無力化されてきています。

・ 自分自身の体験でいうと、AI作曲は「音楽をつまらなくする存在」どころか、かなりワクワクする存在になりつつあります。

Suno AIで自分の聴きたいイメージをそのまま曲にしていくと、気づけば他人の楽曲より、自分が生成した曲をメインで聴いている。こんな体験はこれまでほとんどありませんでした。要は、「誰が作ったか分からない大量のAI楽曲」が問題なのであって、「自分の好みや世界観を反映したAI楽曲」は、新しいクリエイティブのカタチになり得ます。

感想

- ・ AIの作った動画はYouTubeなどで聞いたことはあるが、実際に97%の人が聞き分けが付かないほどまでに進化していることに驚いた。
- ・ 今は否定的な意見も多く懐疑的な見方が大半であるが、コメントのように自分だけのプレイリストができるという見方はなるほどと感じた。
- ・ むしろアニメやドラマの主題歌は制作費や背景のすり合わせが少なく、自身の思い道理のものができるためいいのかも??